ワクワク通信

№１
令和７年８月

松橋西支援学校長挨拶

平成３０年度から３年間、私は副校長として松橋西支援学校に勤務していました。
上益城分教室と甲佐高校とが様々な場面で交流する様子をその時から見てきましたが、当時から甲佐高校の生徒さん方は、分教室の生徒たちのことを自然に受けとめてくれて、また認めてくれていました。

甲佐高校の生徒さんが発した言葉で一番うれしかったのは、「分教室さんって凄いんだぞ」という言葉でした。その生徒さんが周りにいた他の生徒さんに伝える場面を目の当たりにして、特に感動した覚えがあります。

そのような思いから、昨年度、この「インクルーシブな学校運営研究事業」の準備を進めるに当たり、ぜひとも上益城分教室と甲佐高校で取り組んでみたいと思い、それが実現しました。
これまでもたくさんの場面で、折々の行事等でも授業の中でも交流及び共同学習が行われてきた両校ですが、それを更に一歩進めたらどういう世界が見えるのだろう、そして学びを更に深めるための共同学習ってどういうものなのだろうと、ぜひともそれを探ってみたいと願い、この４月から準備に当たってきました。

これからいよいよ具体的な姿が見えていくものと、非常にワクワクをしておりますし、本校の職員に対しても、「今まで自分たちが見たことのない取組に、ぜひ先生たちもワクワクして取り組んでほしい」と伝えているところです。

そして、この事業の本来の意味も辿ると、障害者権利条約における共生社会の実現というところにも繋がっていくものです。国際的にも社会的にも、大きな意味のあるところだと思います。
私たちはこの先駆けとして、苦労も多いかもしれませんが、常に意欲的に、前向きに取り組んでいきたいと思っておりますので、なにとぞ御理解と御支援を賜り、一緒に取り組んでいただけたらと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

松橋西支援学校長　松本　英雄

第１回連携協議会

７月８日に甲佐高校において、令和７年度第1回連携協議会が開催されましたので、その内容を報告します。
連携協議会のメンバーは次の表のとおりです。
事務局として、特別支援教育課から今村主幹、山中指導主事、高校教育課から森塚指導主事が出席されました。

会議ではまず、特別支援教育課山中指導主事から本事業の概要、カリキュラムマネージャーから研究の流れ・方策等について説明がありました。
その後、質疑応答や意見交換を行いました。

多くの建設的なご意見をいただきましたので、今後の取組に生かしていきます。

両校の生徒が日常的にふれあい、この経験が卒業後の生活にも生かされることを願っています。

連携協議会メンバー

	氏　　名		氏　　名
1	河田 将一（九州ルーテル学院大学 教授）	8	島田 幸恵（松橋西支援学校　分教室主任）
2	原　恭一（甲佐高校　校長）	9	鶴田 笑美子（甲佐高校　特別支援教育Co）
3	松本 英雄（松橋西支援学校　校長）	10	村嶋 恭子（松橋西支援学校　特別支援教育Co）
4	金子 隆博（甲佐高校　教頭）	11	山下 由美（カリキュラムマネージャー）
5	大嶌 恭晴（松橋西支援学校　教頭）	12	市原 留美子　（カリキュラムマネージャー）
6	田中 一臣（松橋西支援学校　主幹教諭）	13	西坂 紀彦（特別支援教育課　課長）
7	稲津 英隆（甲佐高校　教務主任）	14	横川　修　（高校教育課　課長） （代理：折尾知之　高校教育課審議員）

令和７年度の研究の流れ

１学期は実態把握、２学期は実践、３学期をまとめと次年度への志向と考えていること。
１学期の取組として、６月１６日から１８日に甲佐高校で行われた公開授業の参観記録を報告し、両校の生徒・職員向けのアンケートを７月実施すること。
２学期は甲佐高校の文化祭「青垣祭」があり、分教室の生徒と合同で発表を行ってきた歴史もあり、今年も更に内容を充実させ、企画の段階から共同学習として、それぞれの教科等の目標を共有し、取り組んでいくこと。
この期間に公開授業を実施することなどを提案し、了承されました。

主な意見

・先生方が互いの授業を見たり、ティームティーチングをしたりする中で、授業づくりについて学ぶ機会としたい。
・どちらかの生徒のためではなく、両校の生徒にメリットがある取組にしたい。
・いろいろな生徒の思いに応えたい。
・してもらう、してあげるという生徒の関係にはしたくない。
・共同学習の環境整備にあたっては、「ハードウエア」「ソフトウエア」「ヒューマンウエア」の３つについて、上益城分教室と甲佐高校の双方で確認し、突合する必要がある。
・共同学習であれば、それぞれの学校の学習指導案があってしかるべきではないか。
それぞれ学校で学習の目標や評価が示され、さらに個別の配慮が示されるとよい。
・研究の成果として、これをやった、あれをやったの羅列ではなく、取組の柱（例えば地域について調べ、発表する）となるものがあり、それに向かって皆が注力するほうが取り組みやすく、目標を共有しやすいのではないか。

次回は10月頃に予定しています。

「交流及び共同学習」が両校の生徒にとっても先生方にとっても今まで以上に「ワクワク」する活動となり、それを見守る関係者の方々にも「ワクワク」を発信できる取組となるよう、この通信を「ワクワク通信」と名付けました。
ご意見・ご感想がありました、カリキュラムマネージャーまでお寄せください。

分教室の販売会の様子

甲佐高校の生徒さんも来られました